

■ 概況

3/25～3/31のNYMEX・WTI先物市場は、58.56～61.56ドルの範囲で推移した。

4月1日は、OPECプラスの閣僚監視委員会(JMMC)がWEB開催され、基準生産量比690万b/dの現行協調減産を5月に35万b/d、6月に45万b/d緩和し、7月から576万b/dとすることで合意、また、サウジも100万b/dの自主減産を5月に25万b/d、6月に35万b/d、7月に40万b/dずつ縮小すると発表した。これに対し、市場では、需要拡大に対応した段階的減産緩和方針が好感され、あるいは、OPECプラスが今後の需要回復に自信を示したものと受け止められ、大幅に反発した。なお、米国内で稼働中の石油掘削装置は前週末比13基増の337基と3週連続の増加。5月限の終値は前日比2.29ドル高の61.45ドル。

2日は、聖金曜日の休日で休場。

連休明け5日は、欧州連合(EU)とイランが核合意復帰の協議を開始、米国の復帰も近づき、イランの原油輸出再開の早期化懸念が高まるとともに、欧州における新型コロナの感染再拡大懸念で、OPECプラスの減産緩和が需給緩和感をもたらし、反落した。5月限の終値は2.80ドル安の58.65ドル。

6日は、国際通貨基金(IMF)の2021年世界経済成長見通し6.0%(前回比0.6ポイント上方修正)や米中両国における非製造業景況指数(PMI)の改善など、世界経済の先行きが明るいとして、反発した。また、米国エネルギー情報局(EIA)月報の2021年米国原油生産見通しの下方修正、米国とイランの関係改善には時間を要するとの見方も上昇要因となった。5月限の終値は前日比0.68ドル高の59.33ドル。

7日は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、

原油在庫の市場予想を大きく上回る取り崩し、また、世界経済への楽観的見通しで、続伸した。ただ、EIA発表のガソリン在庫の積み増しなどが、上値を抑えた。5月限の終値は前日比0.44ドル高の59.77ドル。

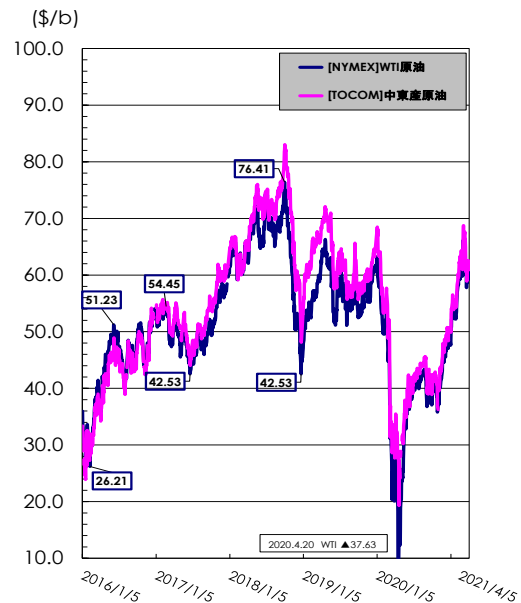
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は3月25日～31日の間61.90～63.80ドルの範囲で推移した。4月1日61.80ドル、2日63.20ドル、5日62.30ドル、6日61.30ドル、7日61.00ドルと推移した。

為替は3月25日～31日の間108.88～110.71円の範囲で推移した。4月1日110.84円、2日110.66円、5日110.64円、6日110.29円、7日109.82円で推移した。

財務省が4月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、3月中旬の原油輸入平均CIF価格は、40,889円/klで、前旬比1,266円高、ドル建て60.95ドルで前旬比1.35ドル高、為替レートは1ドル/106.66円。

そのような中で、4月5日時点の小売価格は、ガソリンが前週(3月29日)比横ばい、軽油も同0.1円の値上がり、灯油は6円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは19週ぶりに値上がり止まり、軽油は19週連続の値上がり、灯油も19週連続の値上がりだった。この週(4月第1週)の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比1.0円の値上げとなった。

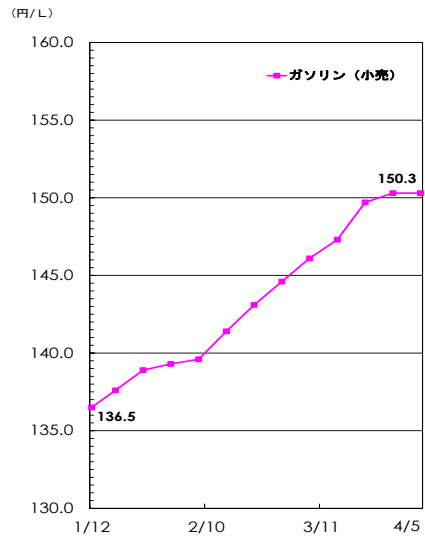
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/28～4/3	2,673 ▼ -133	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	69.5 ▼ -3.4	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	4/3	10,224 ▼ -62	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	4/5	61.70 ▲ 0.62	▲ 26.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/5	58.65 ▼ -2.91	▲ 32.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月中旬	60.95 ▲ 1.35	▼ -1.21
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	40,889 ▲ 1,266	▼ -1,339
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.66 ▼ -0.96	▲ 1.34
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/5	111.64 ▼ -1.01	▼ -1.68



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/28 ~ 4/3	806 ▼ -82	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	786 ▼ -53	▲ -	
	輸出	"	83 ▼ -58	▼ -	
	在庫	4/3	1,743 ▼ -62	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/30 ~ 4/5	59.8 ▼ -0.2	▲ 24.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/30 ~ 4/5	56.7 ▲ 2.1	▲ 28.8
		(TOCOM/中部)	4/5	58.5 ▲ 1.6	▲ 29.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/5	150.3 ➡ 0.0	▲ 16.6	

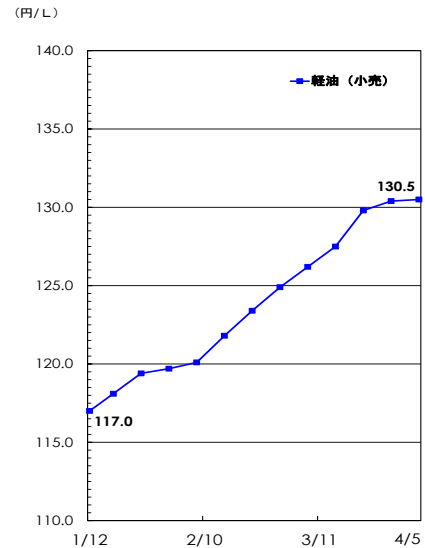
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

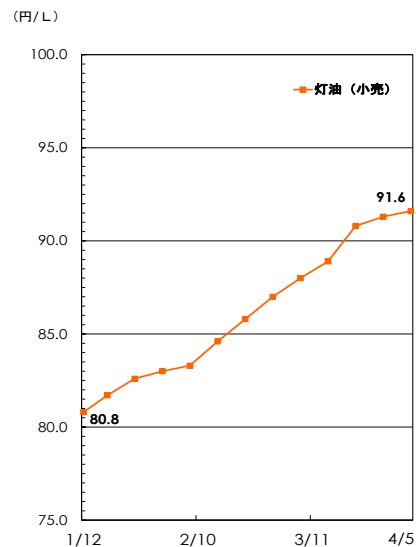
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/28 ~ 4/3	741 ▲ 6	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	572 ▼ -10	▼ -	
	輸出	"	114 ▲ 89	▼ -	
	在庫	4/3	1,468 ▲ 55	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/30 ~ 4/5	61.9 ▼ -0.4	▲ 23.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/30 ~ 4/5	62.7 ▲ 2.7	▲ 21.0
		(TOCOM/中部)	4/5	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/5	130.5 ▲ 0.1	▲ 15.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/28 ~ 4/3	132 ▼ -123	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	223 ▲ 19	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -	
	在庫	4/3	1,430 ▼ -91	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/30 ~ 4/5	61.1 ▲ 0.5	▲ 22.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/30 ~ 4/5	56.5 ▲ 0.9	▲ 24.0
		(TOCOM/中部)	4/5	59.1 ▲ 2.4	▲ 21.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/5	91.6 ▲ 0.3	▲ 8.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月7日のNYMEXのWTI先物原油は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、原油在庫は前週末比120万バレル減と市場予想(同40万バレル減)を大きく上回る取り崩しとなったこと、また、前日の国際通貨基金(IMF)の2021年世界経済成長見通しの上方修正など世界経済への楽観的見通しで、続伸した。ただ、EIA発表のガソリン在庫が同400万バレル増と市場予想(同20万バレル減)に反する積み増しとなったことや、欧州連合当局から、アストラゼナカ製ワクチンの血栓発症の副反応の疑いが示されたことなどが、上値を抑えた5月限の終値は前日比0.44ドル高の59.77

ドル、6月限の終値は同0.44ドル高の59.81ドル。

EIAによると、4月5日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.5セント値上がりの1ガロン2.857ドル(84.2円/ℓ)、ディーゼルは同1.7セント値下がりの3.144ドル(92.6円/ℓ)となった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、ディーゼルは2週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年3月28日～4月3日に休止したトッパー能力は71.9万バレル/日で、前週に対して10.9万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は267.3万klと、前週に比べ13.3万kl減少。前年に対しては33.6万klの減少。トッパー稼働率は69.5%と前週に対して3.4ポイントの減少、前年に対しては7.4ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/9.3%減、ジェット/41.1%増、灯油/48.2%減、軽油/0.8%増、A重油/5.3%減、C重油/7.4%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は11.4万kl(前週比8.9万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、灯油が増加、その他の油種で減少となった。前年比でガソリン、ジェット、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は78.6万kl(対前週6.2%減)と2週振りで減少した。ジェット11.7万kl(対前週88.5%増)、灯油22.3万kl(対前週9.4%増)、軽油57.2万kl(対前週1.8%減)、A重油15.6万kl(対前週30.1%減)、C重油15.0万kl(対前週5.2%減)。

(単位:千kl)

	今週 (3/28 ~ 4/3)	前週 (3/21 ~ 3/27)	前週比
ガソリン	786	839	▼ -53 (-6%)
ジェット燃料	117	62	▲ 55 (89%)
灯油	223	204	▲ 19 (9%)
軽油	572	582	▼ -10 (-2%)
A重油	156	222	▼ -66 (-30%)
C重油	150	158	▼ -8 (-5%)
合計	2,004	2,067	▼ -63 (-3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月3日時点の在庫は、ジェット、軽油、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、ジェットが減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは174.3万kl、前週差6.2万kl減。前年に対しては4.3万kl少ない。

灯油は143.0万kl、前週差9.1万kl減。前年に対しては2.0万kl多い。

軽油は146.8万kl、前週差5.5万kl増。前年に対しては29.0万kl多い。

A重油は73.7万kl、前週差3.9万kl増。前年に対しては2.7万kl多い。

C重油は176.2万kl、前週差2.5万kl減。前年に対しては4.1万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (4/3)	前週 (3/27)	前週比
ガソリン	1,743	1,805	▼ -62 (-3%)
ジェット燃料	767	762	▲ 5 (1%)
灯油	1,430	1,521	▼ -91 (-6%)
軽油	1,468	1,413	▲ 55 (4%)
A重油	737	698	▲ 39 (6%)
C重油	1,762	1,787	▼ -25 (-1%)
合計	7,907	7,986	▼ -79 (-1.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月30日～4月5日の指標原油価格は前週(3月23日～29日)比で値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比1.0円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

3月30日～4月5日の製品スポット市況は、3月23日～29日平均と比べ、先物の全取引と陸上の灯油の値上がりを除いて、値下がりした。

直近(3/30～4/5)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油は0.4円の値下がりだった。直近週(3/30～4/5)において、ガソリンは113～114円台で値下がり、灯油は60～61円台で値上がり後ほぼ横ばい、軽油は61～62円台で値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(3/30～4/5)に、前週比で、ガソリンは0.4円の値下がり、灯油は0.4円の値下がり、軽油は0.2円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間(3/30～4/5)に、ガソリンは114円台で値下がり後横ばい、灯油は56～57円台で値下がり後回復、軽油は63円台横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは2.1円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は2.7円の値上がりだった。先物価格は、同期間(3/30～4/5)に、ガソリン109～111円台で出入り後値上がり、灯油55～56円台で値下がり後回復、軽油61～63円台で出入り後ほぼ横ばいで推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (3/30～4/5)	前週 (3/23～3/29)	前週比
	レギュラー	59.8	60.0
灯油	61.1	60.6	▲ 0.5
軽油	61.9	62.3	▼ -0.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (3/30～4/5)	前週 (3/23～3/29)	前週比
	レギュラー	56.7	54.6
灯油	56.5	55.6	▲ 0.9
軽油	62.7	60.0	▲ 2.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/30～4/5実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.2	▲ 2.1	▲ 1.0
灯油	▲ 0.5	▲ 0.9	▲ 0.7
軽油	▼ -0.4	▲ 2.7	▲ 1.1
A重油	▼ -1.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月5日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(3月29日)比横ばいの150.3円、軽油も同0.1円高の130.5円、灯油は18%ペースで同6円高の1,649円(1%ペースでは同0.3円高の91.6円)。ガソリンは19週ぶりに値上がり止まり、軽油は19週連続の値上がり、灯油も19週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは16都府県、横ばいは1県、値下がり30道府県だった。全国最安値は144.0円の徳島県(前週比0.1円高)、その次に安かったのは145.2円の埼玉県(同0.9円安)、最高値は159.1円の鹿児島県(同0.9円高)だった。最も値上がりしたのは同2.5円高の

東京都(152.9円)で、横ばいは佐賀県(152.5円)、最も値下がりしたのは同2.3円安の島根県(151.0円)だった。

今週(3月30日～4月5日)は、指標原油価格が値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週(4月8日～14日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.0円の値上げとなった。次回調査時(4月12日)のガソリンの小売価格は小幅な値下がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/5)	前週 (3/29)	前週比	直近高値
レギュラー	150.3	150.3	→ 0.0	08/8/4 185.1
灯油	91.6	91.3	▲ 0.3	08/8/11 132.1
軽油	130.5	130.4	▲ 0.1	08/8/4 167.4

小売価格

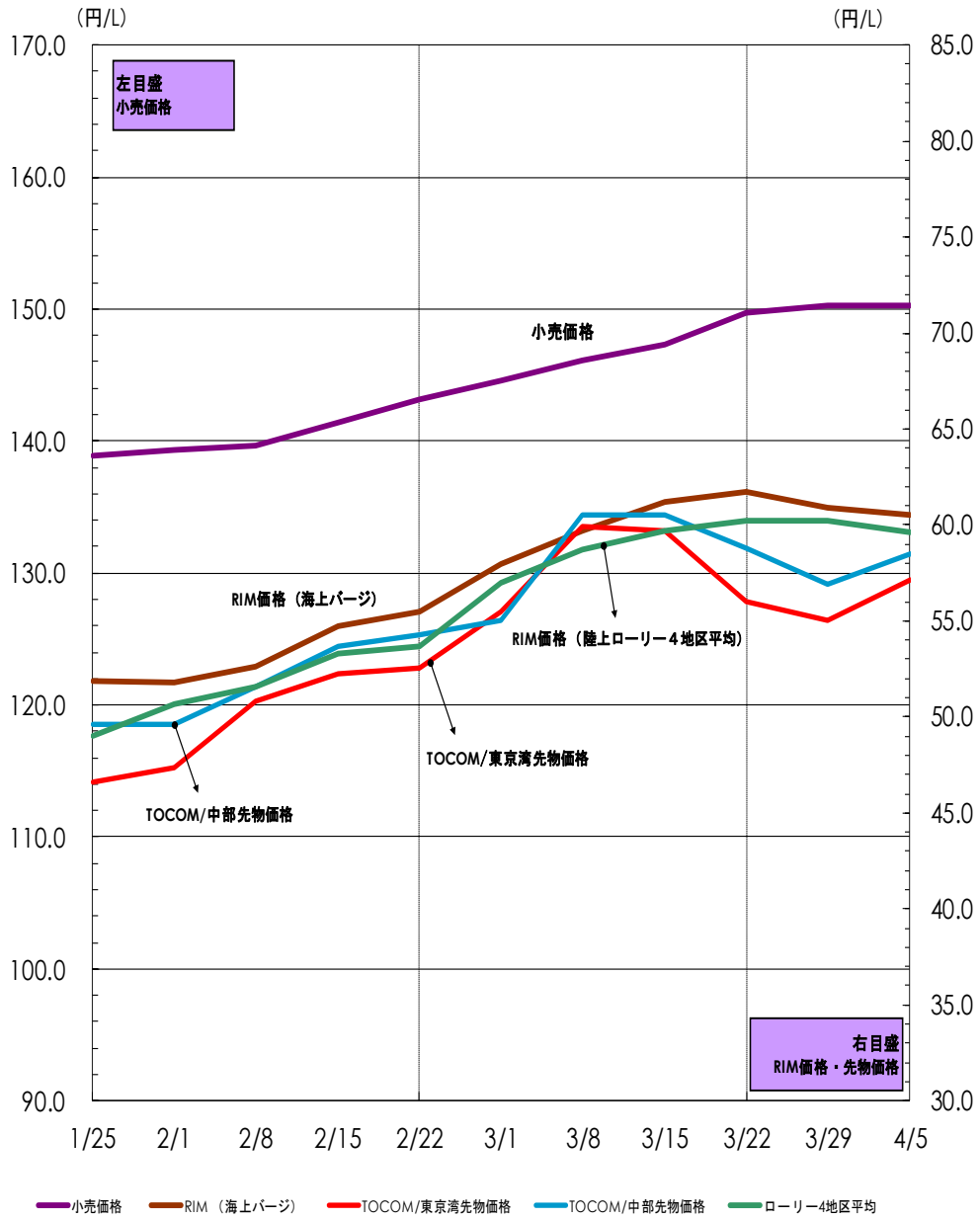
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/1/25 ~ 2021/4/5)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2021第3号)の公表は、4/16(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。